

(様式1) ※A3判(1枚)に収める。実践充実プランの内容と年間推進計画書との整合性に留意して記載すること。

「道徳教育推進拠点校事業」実践充実プラン 高知市立一宮中学校		校長	田所 和仁	教員数	36	児童生徒数 学級数	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		合計			
		道徳教育推進教師	井上 美智子	36	児童生徒数		192	学級数	6	児童生徒数	169	学級数	5	児童生徒数	181	学級数	5	児童生徒数		児童生徒数		児童生徒数
研究テーマ		「よりよく生きるために、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢を養う道徳教育の推進」																				
年度当初の学校の状況		到達目標					中間検証(下半期に向けての改善事項)					年度末(到達目標達成状況)										
道徳性に関する現状 (肯定%) ① 「道徳の時間」は楽しみだ 73% ②道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている82% ③ 家の人と道徳の話をするところがある 29% ④ 自分には、よいところがあると思う 68% ⑤ 将来の夢や目標をもっている 77% ⑥ 人が困っているときは、進んで助けている 83% ⑦ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えるところがある 60%		① 「道徳の時間」は楽しみだ。73→80%以上 ② 道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている。82→85%以上 ③ 自分にはよいところがあると思う。68→73%以上 ④ 将来の夢や目標を持っている。77→80%以上					・「ペアローテーション道徳」を計画し、11月8日の全日本大会プレ大会にもなる本校での道徳教育研修会に向けて、授業作り・指導案の検討などを各ペアごとにしっかりと行っていく。 ・道徳の一宮スタイル(スタンダード)の徹底と、班活動における「司会カード」の活用。 ・「心情円」も活用し、生徒一人ひとりが、自分の意見をより具体的に語るような授業の流れを作っていく。 ・道徳授業チェックシートや道徳意識調査の結果等をしっかりと分析し、授業改善にいかしていく。					①道徳の時間」は楽しみだ。73% ②道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている。89% ③自分にはよいところがあると思う。73% ④将来の夢や目標を持っている。75% 目標達成できていない項目もあるが、「道徳意識調査」のほとんどの項目で年度当初よりは上がっている。										
到達目標達成のための取組		取組計画 ※評価 A(十分できた) B(おおむねできた) C(あまりできていない) D(全くできていない)										指標達成状況の分析										
取組項目	取組の評価指標	5月～8月					中間評価	9月～2月(中間検証を踏まえての追記・変更可)					達成状況		年度末評価							
道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実	◆校内の研究推進委員会及び道徳領域部会において研究授業の計画や進捗管理を行う。(学期1回以上) ◆「道徳教育用指導資料集」を校内研修で活用する。	① 道徳教育の全体計画及び別業、各学年の年間指導計画の見直し・作成。 ② 公開授業を行う際、授業者と学年道徳担当教員及び道徳教育推進教師が事前研・事後研等をしっかり行う。 ③ 管理職及び道徳教育推進教師が各クラスの道徳科の授業を参観できる体制づくり。					B	① 公開授業を行う際、授業者と学年道徳担当教員及び道徳教育推進教師が事前研・事後研等をしっかり行う。 ② 管理職及び道徳教育推進教師が各クラスの道徳科の授業を参観できる体制づくり。 ③ 道徳意識調査や授業チェックシートに「印象に残った時間」を記入する欄を設け、来年度に生かすようにする。 ④ 全教員に道徳の時間に授業をおこなってもら「ハートフルクラス」を計画する。					研究推進委員会において、1学期の道徳授業づくり講座及び2学期の道徳教育研修会、3学期の道徳授業づくり講座についての計画、進捗管理を行うことができた。		B							
道徳科の趣旨を踏まえた「考え、議論する道徳」の授業研究	◆道徳授業チェックシートを全部の項目において3以上を目指す。 ◆公開授業を広く案内し、事後研で深めていく。 ◆「道徳教育用指導資料集」を校内研修で活用する。	① 「道徳の一宮スタイル(スタンダード)」を作成し、道徳の時間の基本的な授業の流れを確認する。 ② 「道徳の一宮スタイル(スタンダード)」を活用した授業を全校研で行い、共通理解を図る。 ③ 道徳意識調査及び道徳授業チェックシートの集計を個人・学級・学年・学校全体別に行い、分析する。 ④ 各時間の授業の流れ・ワークシート・板書の写真・掲示物等を保存していく。 ⑤ 他校での「道徳科」の公開授業を参観する。 ④ ポートフォリオを活用して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、評価の仕方を職員間で共有する。 ⑤ 全校道徳の実施 ⑥ 小中連携の日に1年全クラスと2・3年各1クラス、特別支援学級の道徳の時間の授業を公開する。(6月) ⑦ 「道徳科」の時間における「話し合いの仕方」のスタンダードを作成する。 ⑧ 各週の学年会で前回の道徳の振り返りを行う					A	① 道徳意識調査及び道徳授業チェックシートの集計を個人・学級・学年・学校全体別に行い、分析する。 ② 各時間の授業の流れ・ワークシート・板書の写真・掲示物等を保存していく。 ③ 他校での「道徳科」の公開授業を参観する。 ④ 全校道徳の実施(9月・1月) ⑤ ポートフォリオを活用して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、評価の仕方を職員間で共有する。 ⑥ ペアローテーション道徳を計画し、一つの教材を二人の教員で研究し、授業を行う。 ⑦ 貝塚市立東小学校川崎雅也校長先生を招聘し、師範授業と講演を行ってもら。(2月)					①道徳授業チェックシートにおいて、全項目3以上を達成する事ができた。 ②1学期と3学期の道徳授業づくり講座及び2学期の道徳教育研修会における公開授業を県内各校に案内した。 ③2学期の道徳教育研修会においては、畿央大学島恒生教授から、また3学期の道徳授業づくり講座においては、高知大学森有希准教授から事後研でご講演いただき、道徳科の授業づくりや評価の仕方について全教員で学ぶことが出来た。 ④2学期のペアローテーション道徳の教材を道徳教育研修会での公開授業のとし、指導案を作成する際、「道徳教育用指導資料集」を活用した。		A							
道徳科の趣旨を踏まえた評価の研究	◆新しい内容項目を「22の鍵」として生徒に紹介し、自分自身がどの鍵を手にしたのかについてのアンケートを学期ごとに行う。	① 新たな内容項目及び評価について全教員に紹介する。 ② 昨年度の通知表への記載の例を紹介する。 ③ 大きく「生徒も保護者もうれしくなる」評価の記載の仕方について道徳部会で思案する。 ④ 教員用の「道徳ノート」を作成し、一時間ごとの生徒の様子を記録していけるようにする。					B	① ポートフォリオによる学習状況や道徳性に係る成長の様子を生徒や保護者に伝える。 ② 新しい項目を元に作成している「22の鍵」のうちどの鍵を手にしたのかについてのアンケートを、学期ごとに記入させて分析する。 ③ 毎学期通知表に評価を記入する。					新しい内容項目を紹介した「22の鍵」のどの鍵を手にしたのかについてのアンケートを、学期ごとに記入させて分析した。		A							
家庭・地域と連携した道徳教育の推進	◆道徳便りを月1回発行し、「高知の道徳」の内容も紹介する。 ◆全学級公開による道徳参観日を実施する。(コンサートも紹介し、参加を呼びかける) ◆道徳参観日への保護者参加を30%以上にする。	①道徳便りを月1回をめぐりに発行する。 ②学校での道徳教育について道徳便りで紹介し、家庭や地域における道徳教育について考えてもらう。 ④ 8月の小中合同研修会で道徳教育についての研修を行う。					B	①道徳便りを月1回をめぐりに発行する。 ②道徳参観日についての案内を道徳便り・学校便り・学級便りなどで行い、広く参加を呼びかける。 ③学校での道徳教育について道徳便りで紹介し、家庭や地域における道徳教育について考えてもらう。					①道徳便りを月1回発行し、「高知の道徳」の内容も紹介した。 ②道徳参観日では全学級公開とし、案内を道徳便り・学校便り・学級便りなどで呼びかけをした。土曜日であったこともあり、1年生は30%以上参加してくれていたが、全体としては25%程度であった。 ③道徳コンサートは平日開催であったので保護者の参加は少なかった。		B							